

第53回 おひさまの会

横浜美術館へ行こう

「モネ それからの100年」鑑賞会

2018年9月1日（土）実施

第53回 おひさまの会は、横浜美術館「モネ それからの100年」鑑賞会を行いました。

今夏は、連日猛暑が続き、暑さの新記録も次々と出る大変な夏でしたが、今回の鑑賞会には24名の沢山の方にご参加いただき「モネ展」を楽しむ事が出来ました。

当日は、横浜のイベントとも重なり、美術館前の広場には大勢の方が集まって様々な団体が演じる舞踊、ダンスなどを芝生の上や木陰の中からそれぞれ自由に楽しんでいる姿がありました。

美術館での事前打ち合わせでお話を伺いましたところ、20名以上になると学芸員さんのレクチャーを受けることが可能でしたので、学芸員さんにレクチャーをお願いすることが出来て、学芸員の松永さんの丁寧なレクチャーのお陰で、その後の「モネ展」鑑賞が非常に充実したことは間違いありません。

（後日、横浜美術館にお礼の電話を入れ、松永さんにも「おひさまの会」の感謝の気持ちをお伝えしました）。

横浜美術館は、日本を代表する建築家、故・丹下健三により設計され、1989年11月3日開館以来、ダリ、マグリット、セザンヌ、ピカソなどの作家や、幕末明治以降の横浜にゆかりの深い作家など、12,000点を超える19世紀後半から現代にかけての国内外の美術作品を、幅広く所蔵しています。

今回の「モネ展」は、日本初公開のモネ「バラの小道の家」を含む、モネの初期から晩年までの絵画25点と、モネが影響を与えた後世代の26作家による絵画、版画、写真、映像65点が一堂に展示されました。

クロード・モネは86年の人生で2,500枚を超える作品を描いたそうです。

今回の「モネ展」は4部構成になっており、モネが初期から少しずつ変化していく様子が見られるようになっています。

初期の作品は色彩が暗めのものが多く、だんだん絵の手法が変わり、パレット上で原色の絵の具を



混色しながら描いて明るさを出していくというように変化が出てきました。

モネの作品が年齢とともに少しずつ変化していく様子や、モネに影響されたその後の画家たちの絵が同時に展示されていることで、モネの絵の面白さ、素晴らしさを感じ取ることが出来ましたし、また絵画だけではなく、版画や写真、映像など様々なジャンルの作品にも触れ、驚いたり不思議な感覚だったり、今までにない感動を覚えました。

今回は、モネの絵画だけではなく、モネに影響された様々な作品があったことで、2倍楽しめたような気がしました。

また、事前にレクチャーを聴いていたことで、レクチャーの知識をプラスして美術鑑賞できた事がとても有意義でした。

秋深まるこれからの季節、ますます美術館が熱くなりそうですね！！

「モネ展」鑑賞後の美術館前のマークイズの喫茶店での懇親会では、「モネ展」の感想や、久しぶりに会った皆さんの近況を伝えあい、お茶を楽しみながら和気あいあいと楽しく長い時間盛り上がったのが印象的でした。



《モネ展に参加された方々の感想》

◎楽しい企画に感謝いたします。学芸員さんからレクチャーをして頂いたおかげで鑑賞の視点が明確になり、大変楽しく拝見しました。(いつもぼんやり鑑賞してしまう事が多いのでとても良かったです)。懇親会では、メンバーの太田様から「おひさまの会」の歩みなどいろいろお話を聞かせていただき嬉しいひと時でした。

◎事前に受けたレクチャーは、とても良く解って、展示品の見方がより深くなりました。これからも事前にレクチャーを受けたいと強く思いました。

◎美術家に展示してある絵の横の解説が大変面白く、抽象的な作品の理解にも役立ちました。

◎学芸員さんに説明していただき、鑑賞する時の参考になりました。また、印象派の特徴も少し理解できたような気がします。有難うございました、またよろしく願いいたします。

◎久しぶりに外出して、このような鑑賞会とお茶会まで過ごす事が出来て、とても楽しい一日を過ごす事が出来ました。有難うございました。

◎久しぶりの美術館の鑑賞でしたが、レクチャーを聴いた後に見る絵の感触がこんなにも違うものなのかと改めて感じました。事前に知識を頂き、良い学びが出来て有意義な鑑賞会でした。

◎美術館で頂いた「ジュニアガイド」パンフは、モネの人生をジェットコースターにして書いてあり、大人にも非常にわかり易くて楽しく、今回初めてモネのことが良く解りました。もったいないので子供たちにも是非沢山見に来てほしいですね。

美術館の方々の努力が感じられました。

記録；小野塚悦子